

交通安全だより第4号

I. 今月の安全運転管理について

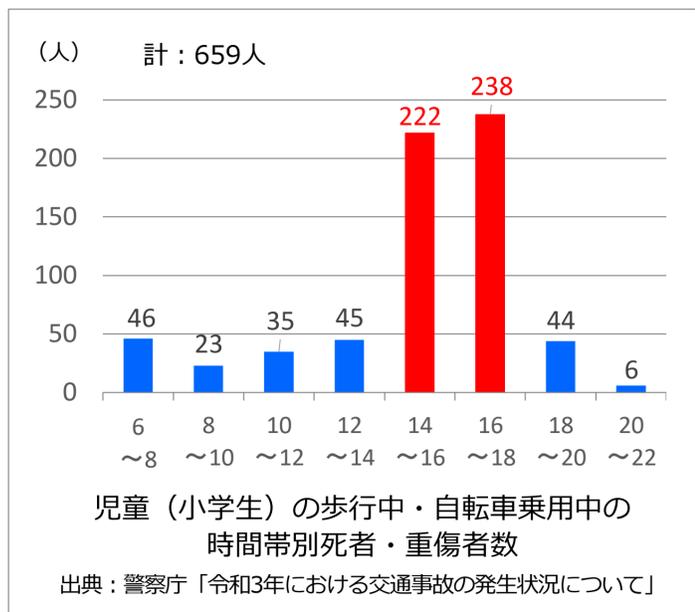
1. 新入学児童との事故防止

児童が小学校に入学する季節になりました。歩行中の交通事故死傷者を年齢別に見ると、新入学児童である7歳児がもっとも多く事故に遭っており、4月～5月にかけて多発しています。小学校に入学すると子供達だけで通学し、帰宅後には子供だけで遊びに出かけるといったことも増えます。子供との事故を防ぐには、子供が多くいる場所を通行しないことが一番です。そこで、日中は通学路や生活道路といった、子供や死角が多い場所を通行しないよう、ルール化しておくといいでしょう。どうしても通行しなければならない場合は、子供の姿がないからといって安心せず、常に子供の飛び出しを予測した運転をするように、定期的にKYT等を実施するようにしましょう。

知っておきたい豆知識 子供の交通事故の特徴

子どもの交通事故の傾向は次のとおりです。こうした事故の特徴を頭に入れて運転しましょう。

- ①歩行中の事故の死傷者数は低学年が多い。
- ②男児の死傷者数は女児よりも2倍ほど多く、男児のほうが危険な行動をとる傾向がある。
- ③登下校中の事故(とくに下校中)が多い。
- ④午後2時から薄暮時間帯に多発している。
- ⑤平日の事故件数は土曜、日曜を大きく上回る。
- ⑥登下校中の事故は4月から6月にかけて多発。
- ⑦子供の違反では「飛び出し」がもっとも多い。



2. 横断歩道での歩行者優先を徹底する

横断歩道で歩行者が横断しようとしているにも関わらず、横断歩道手前で一時停止しない運転者をよく見かけます。横断歩道を通過する際のルールや、ダイヤモンドの意味(この先に横断歩道又は自転車横断帯があること)について理解し、横断歩道での歩行者優先に事業場全体で取り組みましょう。

歩行者を保護することは、ドライバーの責務です。歩行者を危険にさらす以下の行為は厳禁です。

横断歩道で歩行者を優先しない



横断歩道は歩行者優先です。横断歩道を横断しようとする歩行者がいる場合は、手前で一時停止して、歩行者を優先させなければなりません。

歩道を通過する時に一時停止しない



路外施設に出入りするために歩道を通過するときは、その手前で一時停止して、歩行者の通行を妨げないようにしてください。

横断歩行者にギリギリ接近する



横断歩道を渡る歩行者に対してギリギリ接近して横断を急かすドライバーがいます。横断歩行者がいるときは、停止して歩行者の横断を妨げないようにしてください。

歩行者に接近しすぎる



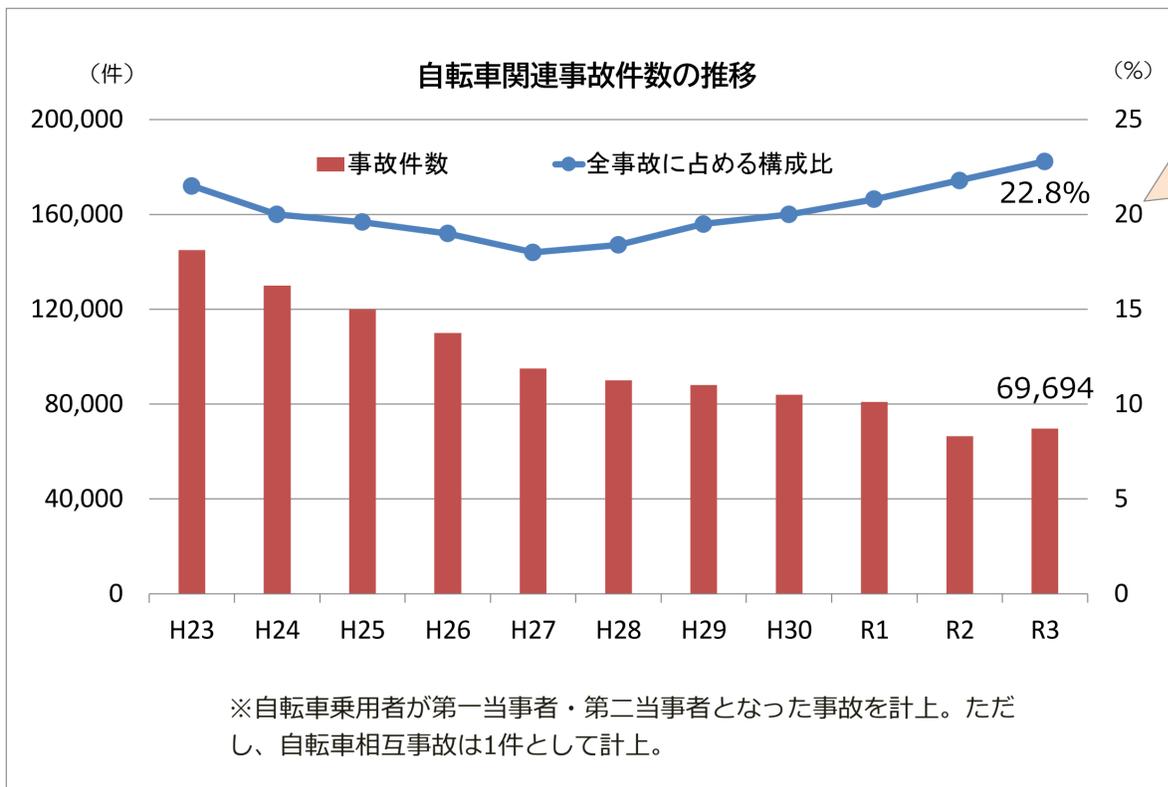
車道と歩道の区別のない狭い道路などで、歩行者の側方を通過するときは、十分な側方間隔を保って走行しましょう。側方間隔が保てない時は、徐行する必要があります。

3. 自転車の通行が多い場所では危険予測を徹底しよう

自転車は手軽に利用できる半面、免許が不要で乗車できる等の理由から、ルールを守らず危険な行動をとる利用者が少なくありません。例えば、見通しの悪い交差点で、一時停止せずに飛び出てきた自転車にヒヤリとした、といった経験はありませんか。生活道路や商店街、学校周辺など、自転車の行き来の多い場所を走行するときは自転車の危険行動を予測しておきましょう。とくに見通しの悪い交差点では、自車が優先であっても自転車の飛び出しを予測するようにしましょう。

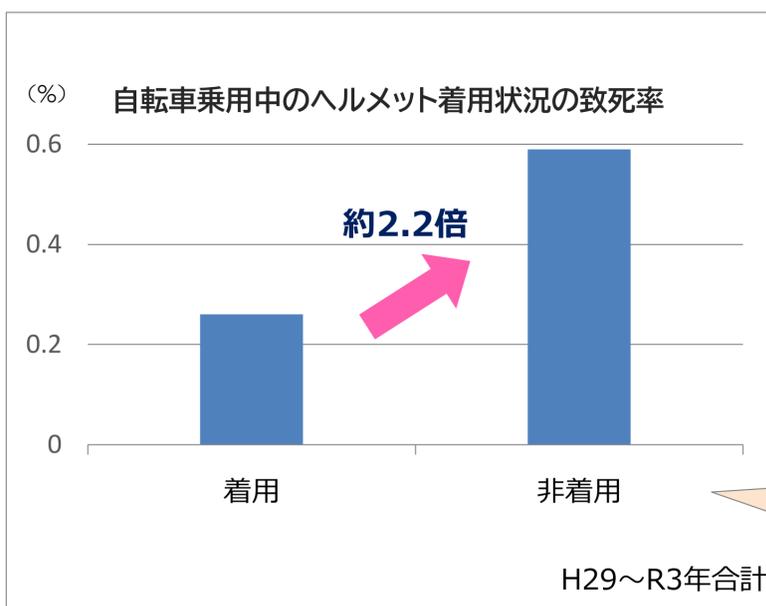
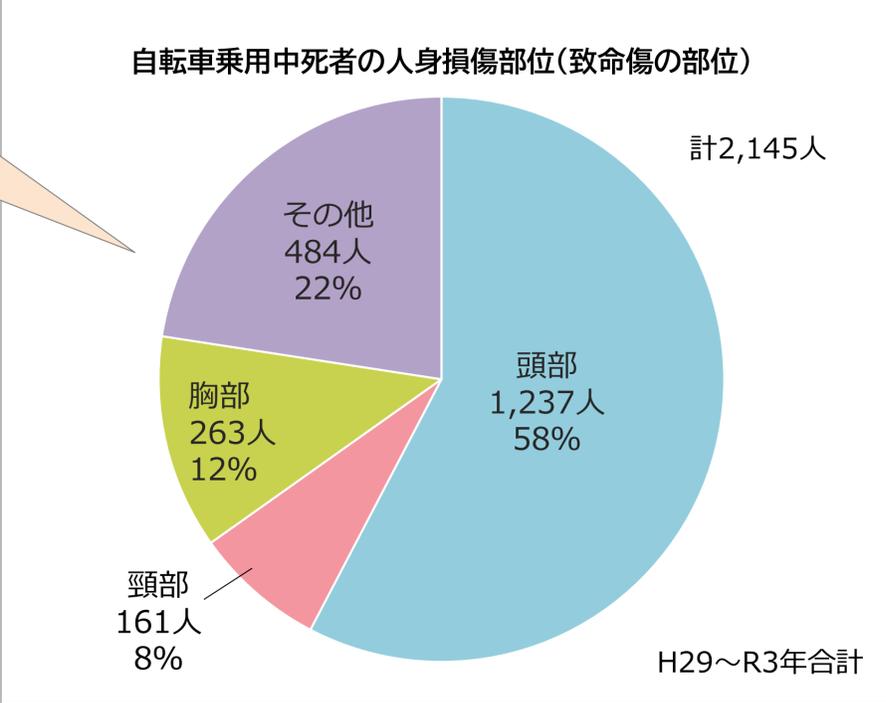
データで見る！自転車事故！

出典:警察庁ホームページ



警察庁の統計によると、令和3年中の自転車関連事故の件数は69,694件でした。平成23年からの推移を見ると、事故件数は減少しているものの、事故全体に占める構成比は平成28年以降増加傾向となっており、令和3年には5件の事故のうち1件が自転車関連事故となっています。

自転車乗用中死者の損傷（致命傷）部位を見ると、頭部が約6割と最も多くなっています。このことから、ヘルメットの着用には事故発生時の被害を抑える効果が見込めることが分かります。



ヘルメット着用状況別の致死率を見ると、非着用の致死率は着用時に比べて約2.2倍高くなっています。

II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤時	どこで	一般道路
何をしている時に	前車が右折するのが見えたので追い越そうとした時		
どうなった	前車がハンドルを左に切ったため接触しそうになった		